

君に届かない

どんくん

## 君に届かない

---

「君に届け」が好きだと  
君が言ったから  
僕の詩集はこんなタイトル  
今日も  
明日も  
明後日も  
君に届かない

あなただけが

---

あなたがいれば  
何もいない  
そう信じていたのに  
今の僕には  
あなただけ足りない

# 大人

---

抱えきれない別れを  
いくつかぞえて  
僕らは大人になれるだろう  
胸に刺さった棘は  
いつか僕を  
大人に変えてくれるの

## 煙

---

ポケットの中の  
しけたタバコに火をつける  
涙は君のせいじゃない  
胸の痛みは  
君のせいじゃない

## 真夜中過ぎ

---

君となら

明けないで欲しいと願った夜でさえ

一人の今は

長く苦しい

## もう君がない

---

今でも君の笑顔

今でも君の香り

覚えていたならば

どれだけ切ないだろう

けれども

そのどちらも失くした僕は

どれだけ哀しく

どれだけ空虚だろう

## メリーゴーランド

---

ふとした本の一節に  
テレビドラマのワンシーンに  
瞳を閉じたその隙に  
届かなかった  
君と一緒に未来図が  
ぐるぐるぐるぐる  
回る 回る



ずっと

---

ずっと好きだって

ずっと一緒だって

言ってたのに

僕は知らなかったんだ

「ずっと」が

こんなにも こんなにも

早く行き過ぎてしまうなんて

## 毛布

---

毛布を抱きしめる

抱きしめる

君が落としていった

匂いを探し求めて

抱きしめる

抱きしめる

## 途方に暮れて

---

夢を見ていた

君といつまでもそばにいる

君と幸せを分かち合う

そんな未来の夢を見ていた

夢は崩れた

君といつまでもそばにいることも

君と幸せを分かち合うことも

僕にはもう届かない空の夢

こんな気持ちになるならば

初めから恋なんてしなければよかった

こんな気持ちになると知っていても

落ちてしまうのが恋なのか

大切に大切に思っている君だから

他の誰にも君を渡したくないと思う

おかしいかな？

大切に大切に思っている君だから

素直に君の幸せを祈ってあげられない

おかしいかな？

二度と会えなくていいなんて思わない

二度と連絡しないなんて思わない

君は僕の大切

他の誰にも代えられない人

大切に大切に思っている君だから

他の誰にも君を渡したくないと思う

おかしいかな？

大切に大切に思っている君だから

素直に君の幸せを祈ってあげられない

おかしいかな？

一日一日と君といた時間が遠ざかる

霞の向こうに君は隠れようとする

僕はそれを止める術さえもたず  
ただじっと眺めているだけ

大切だから嫌いになろう  
大切だから失くしてしまおう  
これ以上苦しめることも  
苦しむこともない  
世界一君を愛しているから  
世界で五番目くらいのヒトと  
世間にありふれたつまらない恋をしよう

君に軽蔑される道かもしれないけど  
もう何が正しい道なのかなんてわからないけど  
君を大嫌いになって  
新しく希望のかけらもない毎日に身を投げる方が  
僕らのために  
なっていくのかもしれない

いくあてはないけれど  
とりあえず僕はここで  
途方に暮れていよう

## 夢で逢えたら

---

夢の中で目覚めて  
慌てて僕は駆け出した  
夢でなら君に逢える  
時空を歪めて  
今すぐに  
君に逢いたくて

## 大好き

---

「大好き」を  
「大好きじゃない」に変えることは  
「大好き」でい続けるのと同じくらい  
難しいことなのかもしれない

もやもや

---

張り裂けそうな胸の中から

丁寧に

一つずつ

コトバをすくいだしては

そっと空に放つのだ

そうすれば

いつかこの胸に

爽やかな風が吹き抜けるのだと信じて

## 敵

---

敵はこんなにもこんなにも  
僕の内側にいて  
また飽きもせず  
僕の胸を軋ませる  
僕はただ膝を抱え  
時計の針が過ぎるのを  
今か今かと待っている



人は一本の木なのです  
『心根』という根を持った  
一本の木なのです

木は  
弱った根の上では  
高く伸びていくことも  
広く広がっていくことも  
できないのです

だから  
深くて強い心を持ちなさい  
深くて強い心根を張りなさい

人は一本の木なのです  
そして幹は体です

木が高く伸びていくのは  
幹の力  
根っこが吸い上げた栄養を  
枝葉に送り届けるのも  
太陽の近くで光を浴びるのも  
幹の力です

だから  
健やかな体を持ちなさい  
心の栄養を受け止められる体を持ちなさい

人は一本の木なのです  
枝はあなたの頭脳です

木が広く広がっていくのは  
枝の力  
そこに鳥が止まり  
その下に人が集まるのです

だから  
いろいろなことを知りなさい  
いろいろなことを学んで  
大切な誰かのために  
知識の枝を伸ばしなさい

人は一本の木なのです  
『言葉』という葉を生やした  
一本の木なのです

木が太陽の光を受けるのは  
葉の力  
次の命のために散っていくのも  
葉の仕事です

だから  
大切な人の思いに応える言葉を持ちなさい  
大切な人の命を支える言葉を持ちなさい

人は一本の木なのです  
根があり  
幹があり  
枝があり  
葉がある  
一本の木なのです

最後に  
木は一本では生きられません  
周りにいろいろな命があり  
いろいろな自然の恵みがあります

それを  
根で 葉で  
目一杯受けて  
木は生きるのです

そして  
幹を通して  
受け止めたものを全身に送ったら  
幹で 枝で 葉で  
受け止めたものを  
返していくのです

だから  
人は一本の木なのです  
一本の木なのです

## 四季を愛する人

---

春のように温かく  
誰かを包み込める人でいて欲しい  
木漏れ日のように優しく  
春風のように爽やかに  
心を吹き抜ける清らかさを持ち続けて欲しい

夏のように熱く  
誰かと関わり続ける人でいて欲しい  
嵐のように激しく  
海のように大らかに  
うねり続ける情熱を持ち続けて欲しい

秋のように美しく  
誰かを和やかにさせる人でいて欲しい  
夕日のように切なく  
紅葉のように健気に  
輝き続ける懸命さを持ち続けて欲しい

冬のように厳しく  
誰かを叱れる人でいて欲しい  
雪のように柔らかく  
霜のように力強く  
自分を突き動かす意志を持ち続けて欲しい

そして 春を 夏を 秋を 冬を  
四季を愛せる人でいて欲しい

身近な小さな幸せや  
途方もなく大きな幸せに気づいて  
それを愛せる人でいて欲しい

春には梅雨があり  
降り続く雨に心が沈むときもあるだろう  
けれどもその雨のあとには  
熱く燃え上がる夏が来る

夏には台風が来て  
激しい風雨に心が沈むときもあるだろう  
けれどもその嵐が  
涼しい夜を運んでくれる

秋には鮮やかな花が散り  
散りゆく木の葉に心が沈むときもあるだろう  
けれども散り際に  
色づく葉にこそ美しさがある

冬には凍てつく風が吹き  
目覚めの肌寒さに心が沈むときもあるだろう  
けれどもその朝に  
降り積もった雪に踊る心がある

どんな景色の中にも  
幸せを見つけられる人でいて欲しい

そしてどうか  
その幸せを  
分かち合える誰かを見つけて欲しい

自分が幸せを分け与えたいと思える人を  
自分に幸せを分け与えてくれるだろう人を  
どうか見つけて欲しい

幸せは誰かに与えて減るものではない  
誰かに与え  
共に温めることで  
もっともっと大きな幸せに  
膨らんでいくものなのだ

だからあなたよ  
四季を愛し  
幸せを愛し  
そして  
あなたの周りの人を愛する人であれ

そんなあなたであるならば  
きっと自分の幸せを見つけられる  
そういうあなたになれるだろう  
そういうあなたでいて欲しい

忘れないでいてほしい  
強さの意味を  
強いということは  
人を傷つけることではない  
強いということは  
人の傷を癒すことである  
自分の弱さを受け入れて  
誰かのためにつくすことである  
そんな強さを持って  
生きる人でいてほしい

忘れないでほしい  
優しさの意味を  
優しいということは  
人を甘やかすことではない  
優しいということは  
人のために厳しくなることである  
そして厳しさの裏に  
どこまでも愛情を持ち続けることである  
そんな優しさを持って  
生きる人でいてほしい

忘れないでほしい  
賢さの意味を  
賢いということは  
テストで満点が取れることではない  
賢いということは  
何をすべきかを知ることである  
自分の愚かさも知りながら  
なすべきことを見つけられることである  
そんな賢さを持って  
生きる人でいてほしい  
忘れないでほしい  
美しさの意味を  
美しいということは  
顔立ちがきれいということではない

美しいということは  
どんな困難にも凜として立ち向かうことである  
自分の心の醜さを知り  
そこから逃げ出さないことである  
そんな美しさを持って  
生きる人でいてほしい

忘れないでほしい  
いつまでも

忘れないでほしい  
共に過ごした日々を

忘れないでほしい  
あの日の笑顔も  
あの日の涙も  
その意味も

けれども僕は知っている  
人は必ず忘れていくことを  
どんな喜びも  
どんな悲しみも  
忘れないで生きていくことは  
できないのだということを  
今日の笑顔も  
今日の涙も

いつか記憶というテーブルの上から  
探し出せなくなることを  
けれども僕は思うのだ  
覚えていられないから  
意味がなかったのではない  
覚えていられないから  
大切にないのではない

過ぎゆく日々の意味は  
記憶に残っていくのではない  
生きていくあなたの  
一瞬 一瞬の人生の中に



とけ込んであるのだ  
あり続けるのだ

いつか記憶から消えてしまうことを  
僕は恐れない

それでも僕は信じているから

あなたが  
明日も笑顔であることを  
その笑顔の裏に  
過ぎていった日々の足跡が  
必ず息づいていることを

そしていつか  
もし記憶によみがえる日が来たら  
また会いましょう

今よりももっと素敵な笑顔で  
もっと素敵な僕らで

ひとりでは  
ソフトはできぬ。  
ピッチャーがいて  
キャッチャーがいて  
内野手がいて  
外野手がいて  
控えの選手がいて  
そこに関わる人がいる。

人がいても  
チームはならぬ。  
チームになるには  
欠かせぬものがある。  
支えることと  
支えられること。  
支えるだけではチームはならぬ。  
支えられるだけではチームはならぬ。  
支え合わねばチームはならぬ。  
チームがなるとき  
仲間ができる。

人は  
ひとりでは何もできぬから。  
共に生きる仲間を持つ。  
共に生きる友を持つ。  
人生は友と共にあり。

勝負を分ける一瞬というのがある。

勝負を決める一球というのがある。

その一瞬を

その一球を

勝負の中で見極めることは難しい。

だからこそ

一球入魂。

目の前のこの一球が

試合を決めると心得よ。

そのことを

いつも教えてくれる言葉。

人生も同じ。

人生を決める一瞬を

見極めることは難しい。

だからこそ

一球入魂。

一球入魂の精神を

忘れてはならぬ。

今この瞬間が

あなたの人生を決める瞬間だと

常に心得よ。

そのことを

いつも忘れぬための言葉。

一球入魂

勝ち続けるチームはない  
勝ち続ける人はいない  
だからこそ  
どう負けるかが問われている

負けた後笑ってられる  
そんな負け方がある  
負けた後悔しさに涙を流す  
そんな負け方がある  
けれども  
そんな「後」だけが負け方ではない

何の準備もなく負けてしまった  
そんな負け方がある  
全力でやりきったのに負けてしまった  
そんな負け方がある

負けるまでにどれだけの準備ができたか  
それは勿論負けるための準備ではない  
けれども  
どれだけの努力の結果として負けたのか  
それが負けの価値を決めるのだ

価値ある負け方のできる人であれ  
価値ある負け方のできる人だけが  
価値ある勝ち方のできる人だから

何百本もノックを受けて  
何百回もバットを振って  
僕らがその先に目指すのは  
たった一球のフライを捕ることで  
たった一本のヒットを打つことで

何百本も走り込んで  
何百球も投げ込んで  
僕らがその先に目指すのは  
たった一回の盗塁をすることで  
たった一回の三振をとることで

その「たった一回」の裏にある  
何百もの時間を  
君は無駄だったと笑うだろうか  
その「たった一回」さえも  
もしも訪れぬまま終わるとしたら  
何百もの努力を  
君は無駄だったと吐き捨てるだろうか

何百もの努力の先でさえ  
失敗することはある  
何の努力のないままに  
成功することもある

それでも僕らは努力をやめない  
それが未来を切り拓くただ一つの力だと  
いつでも信じているから

負けるために努力をする人はいない  
けれども負けてしまうことはある

勝つために努力を続けてきた  
それでも負けてしまうことがある

人生には数え切れないほどの負けがある  
甲子園で優勝するチームは一校しかないのだから  
数え切れないほどのチームが  
悔し涙を流し 土を握りしめるのだから

だから  
負けることを恐れなくていい

けれども  
ただ負ける人になってはならない

数ある負け  
数え切れないほどの負け  
だからこそ  
どう負けるかが問われている

涙を流すだけの価値のある負けだったか  
力を尽くした負けだったか  
きっとそこに勝負の価値があるのだから

勝ち続けなくてもいい  
価値ある負けを見つけられる人でいて欲しい

義務教育を終え

これからの人生は君たちが拓いていく道です。

時に迷うこともあるでしょう。

時に悩むこともあるでしょう。

しかし

迷いや悩みを振り切って

決断ができることこそ大人へと向かう道です。

困難にくじけることなく

苦難から逃げ出すことなく

大いなる夢に向かい

着実に

一步一步

歩いていってください。

ここで学んできたことは

きっとその助けになるはずです。

父が生まれ  
母が生まれ  
二人が出会い  
一つの家族が生まれた

新たな家族に  
今度は新たな命が生まれ  
少しずつ家族は大きくなった

生まれた命は育まれ  
時を重ね  
そして大きくなった

大きくなった命は  
別の命と出会い  
今日  
新たな家族を作る

新たな家族の始まりの日  
幸せな家族の始まりの日



道は一つじゃない

学校に行く道も  
塾に行く道も  
隣の家へ行く道だって  
一つじゃない

地球を一周した後にだって  
そこにたどり着ける  
それだって  
立派な道

けれども  
隣の家への道を聞かれて  
地球を一周させる人は  
多分  
いない

だって  
その方が早いから  
その方が安全だから  
その方が確実だから

だから  
僕の教える道は  
いつだって早くて  
安全で  
確実

だけど  
それでも  
僕は知っている

地球を一周しても

そこにはたどり着けること

そこには

早さも

安全さも

確実さもないけれど

壮大な冒険や

無限の出会いが

あふれていること

だって

道は一つではないのだから

生まれてきてから  
死ぬまでに  
僕らが出会える  
数少ない景色

穏やかな若葉の芽吹き  
照りつける真夏の陽射し  
燻された落ち葉の煙  
降り積もる雪の味

けれども僕らは知っている  
出会えなかったヒトのこと  
見られなかったモノのこと  
訪れなかった場所のこと

僕らは  
それを知るために  
言葉を覚え  
歴史を知る

## BIRTH

---

ねえ  
考えてみることはないかい？  
初めて外気に触れたとき  
僕はどんな味を感じたのだろうか？  
どんな光を受け止め  
どんな声で叫んだのだろうか？

ねえ  
考えてみることはないかい？  
初めて外気に触れたとき  
空はどんな星を吊るしていたのだろうか？  
どんな星座をかたどり  
どんな人々を祝福したのだろうか？

想像してみるんだ  
僕が生まれた朝のことを  
僕が生まれた夜のことを  
そばにあった世界のことを  
遠くあった光のことを

僕が生まれた日  
その日も世界はちっぽけで  
ため息がでるほど大きかった

## やればできる

---

「やればできる」を  
僕は褒め言葉と考えない  
それは逃げの言葉だ  
できない言い訳を  
それよりもっと前の  
「やらない言い訳」を  
作るだけの言葉だ  
「やればできる」のではない  
「やらない」から「できない」のだ  
「やること」が「できない」のだ  
それならばいっそ  
「やったけどできない」方がいい  
「できない」の積み重ねの上にしか  
「できる」はありえない  
だから  
「やったけどできない」でいい  
「やったけどできない」でいいんだ  
誰もがまずは  
そこにいるんだ  
そして  
それを積み重ねていけば  
それでいいんだ  
「やったけどできない」を  
胸を張って  
続けられる人で  
いてほしい